

1. 本研究の経過

1-1 2006 年度の研究経過

(1) 国土地理協会の助成

2005 年度より国土地理協会からの助成をうけ、外邦図研究を継続してきた。この助成は、2006 年度も継続していただき（助成金額は 200 万円）、後述のような『お茶の水女子大学所蔵 外邦図目録』の編集ならびに刊行、さらに第 8 回外邦図研究会の開催をおこなうことができた。

なお、2005 年秋には科学研究費（基盤研究 (B) 「アジア太平洋地域の環境モニタリングにむけた地図・空中写真・気象観測資料の集成」代表者：小林 茂）を申請したが、不採択であった。これに関連して、後に日本学術振興会、研究事業部研究助成課から「不採択課題中におけるおおよその順位」について、A（上位 20%）という通知があった。この通知によれば、申請細目の「地理学」における基盤研究 (B) の申請数は 32 件にたいし、採択課題は 7 件ということで、ボーダーライン上で不採択になったことが判明した。

(2) 『お茶の水女子大学所蔵 外邦図目録』の編集と刊行

これまでの外邦図研究では、大学所蔵の外邦図コレクションの公刊を目標とし、すでに『東北大学所蔵 外邦図目録』（2003 年 3 月）、『京都大学総合博物館収蔵 外邦図目録』（2005 年 3 月）が刊行された。これらにくわえ、念願の『お茶の水女子大学所蔵 外邦図目録』（全 234 頁）を 2007 年 1 月に刊行した。日本関係の地形図、さらに海図も含めて約 1 万 7 千点に達した。巻頭に田宮兵衛・お茶の水女子大学教授の挨拶文につづき、大浦瑞代（お茶大・院）・高槻幸枝（同）・宮澤 仁（お茶大准教授）三氏による解説、さらに故浅井辰郎先生（元お茶の水女子大学教授・日本地理学会名誉会員）の遺稿「資源科学研究所の地図の行方：多田文男先生の英断」（解説：久武哲也・甲南大学教授）を掲載するとともに、巻末には浅井先生の作製された「東半球大縮尺図 総目録及

び索引図」を付した。

(3) 第 8 回外邦図研究会の開催

2007 年 2 月 17 日（土）に、東北地理学会・お茶の水地理学会・お茶の水女子大学地理学教室と共催により、「ようやく全容がみえはじめた外邦図：大学所蔵図目録の整備と活用」と題して、第 8 回外邦図研究会を、お茶の水女子大学共通講義棟 2 号館 102 教室で開催した。『お茶の水女子大学所蔵外邦図目録』（お茶の水女子大学地理学教室編集）の刊行を記念するもので、冒頭では、外邦図の分類整理にあたられ、外邦図研究会にご参加されてきた浅井辰郎先生のご逝去（2005 年 11 月 1 日）を悼むことになった。海外からのゲストにくわえ、お茶の水女子大学地理学教室の卒業生、旧教員、現教員、学部生・大学院生も多数が参加し、盛会であった。

出席者（敬称略・順不同）：

長谷川孝治、鳴海邦匡、鈴木純子、八木 明、中沢佳子、斉藤元子、飯本節子、菊池正浩、井内 昇、式 正英、田宮兵衛、高野佳代、佐藤 久、大野康彦、児玉 茂、小澤知子、小林雪美、今里悟之、上杉和央、新沼星織、田中順子、辻野民雄、宮澤仁、村山良之、山本健太、大浦瑞代、李 虎相、大宮 治、清水靖夫、長岡正利、小林 茂、青木和子、郭 俊麟、今井健三、手塚 章、首藤英児、渡辺信孝、加藤敏雄、金窪敏知、谷治正孝、佐々木精一、謝 陽、上山昭一郎、砂田幸子、牛越国昭、西城 潔、高槻幸枝、源 昌久、松田孝一

まず浅井先生のご冥福をお祈りする黙祷をおこなった。

つぎに式 正英・お茶の水女子大学名誉教授：「大いなる師表、浅井辰郎先生を偲んで」をお聞きした。浅井先生と外邦図に関する思い出にはじまり、お茶の水女子大学所蔵図の来歴、浅井先生のお茶大着任と資源科学研究所からの外邦図の購入、外邦図の収蔵と利用、学生社版『朝鮮半島五万分の一地図集成』刊行（1981 年）のいきさつなどにふれていただいた。これからまず、外邦図の購入が、当時のお茶大の先生方の努力によるものであったことが理解された。

また、学生社版『朝鮮半島五万分の一地図集成』に使用されたお茶大所蔵図は、大部分が戦前に学生用に消耗品として購入されたもので、原図になった資源科学研究所からの図は少数とのことであった。これから、同集成には等高線を省略した「交通図」がかなり含まれる背景がよく理解できることとなった。



写真1 式 正英先生の講演

その後4件の研究発表と5件のコメントがあった。



写真2 盛況の会場

①久武哲也（甲南大）・小林 茂（大阪大）：「浅井辰郎先生と外邦図」

久武氏は入院中のため、小林が発表した。浅井先生の経歴とともに、先生が地理学における海外地域研究の先達であったことや、資源科学研究所での外邦図との出会いについて紹介した。この発表に対し、松田孝一・大阪国際大学教授（東洋史）が、『中国本土地図目録』を編集された立場から、現在大学や個人の研究者が所蔵する外邦図の多くが、資源科学研究所から頒布されたものであることを指摘しつつ、そのキーパーソンであった浅井先生の役割の大きさについてコメントされた。



写真3 松田孝一氏のコメント

②宮澤 仁（お茶大）・高槻幸枝（お茶大・院）「お茶の水女子大学が所蔵する外邦図の特徴」

お茶の水女子大学が所蔵する外邦図は、1970年代初頭、浅井先生の仲介により資源科学研究所から購入したもので、大学の外邦図コレクションとしては現在のところ最大である。この内容を示す『お茶の水女子大学所蔵 外邦図目録』の編集作業を通じて見えてきたコレクションの全貌とその特徴が説明された。およそ13,000点の外邦図のうち約3,800点が、他の大学には存在しないお茶の水女子大学だけが所蔵する地図であること、とくに旧植民地（台湾、朝鮮半島）や満州（中国東北部）の地形図、南方地域の兵要地誌図、航空図が充実していることが紹介された。



写真4 宮澤 仁氏の説明

そのうち朝鮮半島の地形図に関しては南 榮佑・高麗大学教授（代読：李 虎相・筑波大学大学院生）から、とくに一時期秘図となっていたもの10枚について詳細なコメントをいただいた。なお、これらの図はお茶大所蔵のものをスキャンして南教授にお送りし、鑑定していただいたものである。また

郭 俊麟・中央研究院（台北）地理資訊科学研究專題中心所員は、お茶大所蔵の台湾5万分の1地形図について、その性格を多角的に検討した。



写真5 李 虎相氏



写真6 郭 俊麟氏によるコメント

③田宮兵衛（お茶大）「航空気象図について」

お茶大の外邦図コレクションの特色として、航空気象図の存在がある。この構成や記載内容の紹介とともに、作成した研究者を推定した。これに対し、谷治正孝・帝京大学教授から気象庁図書館の航空気象図の所蔵状況ならびにアメリカ軍の風船爆弾への対応に関する紹介があった。



写真7 田宮兵衛氏による説明



写真8 谷治正孝先生によるコメント

④村山良之（東北大）・照内弘通（東北大）・山本健太（東北大・院）宮澤 仁（お茶大）「外邦図デジタルアーカイブの公開と課題」

東北大学で開発が進められてきた外邦図デジタルアーカイブが本格公開されたことが報告され、インターネットに接続しつつその閲覧の実演がおこなわれた。このデジタルアーカイブは、外邦図の保護と公開・利用促進を両立させるための有効な手段として期待される。



写真9 村山良之氏による説明



写真10 山本健太氏による説明

これに対して、鈴木純子・お茶の水地理学会会長（元国立国会図書館）からは外邦図デジタルアーカ

イブに対する高い評価とともに、国立国会図書館における実務経験をふまえて、幾つかの課題が指摘された。また、**小林雪美・高野佳代両氏（国立国会図書館地図室）**から、国立国会図書館 OPAC に掲載された同館所蔵外邦図の書誌データについての紹介も行われた。



写真 11 鈴木純子氏によるコメント



写真 12 小林雪美・高野佳代両氏によるコメント

以上のように、外邦図の頒布における浅井先生の大きな役割を再認識しつつ、お茶大の外邦図の特色を検討した。また生前の浅井先生の取組みを継承しつつ、外邦図を財産として、様々な人や組織、研究分野をつなぎあわせるための資源として活用することが次世代の課題であることが感じられた。

なお、浅井先生のご逝去に関連して紙碑（西沢利栄「浅井辰郎先生の御逝去を悼む」）が地理学評論 80 巻 8 号（2007）に掲載されたが、先生の外邦図に関するお仕事への言及がなく、残念であった。

(4) その他の活動

2006 年度におこなったその他の活動は、つぎのようなものである。

①2006 年 7 月 25 日、国立公文書館で朝鮮半島・台

湾の外邦図関係資料を調査（渡辺理絵・岡田郷子・小林 茂）。

②2006 年 8 月 4 日、国立国会図書館で朝鮮半島の外邦図関係資料を調査（小林 茂）。

③2006 年 8 月 17 日、PNC 2006 Annual Conference in Conjunction with PRDLA and ECAI でのプレゼンテーション（Seoul National University Hoam Faculty House, Seoul, Korea）（岡田郷子・小林 茂）・Kobayashi, S. and Okada, S., “Japanese Military Cartography in the Korean Peninsula, 1873-1910” .

PNC (Pacific Neighborhood Consortium) および PRDLA (Pacific Rim Digital Library Alliance)、ECAI (Electronic Cultural Atlas Initiative) がおこなった国際会議で、范 毅軍・中央研究院（台北）研究員の要請で出席した。旅費は日本学術振興会からの受託研究費ならびに国土地理協会の助成によった。なお、楊 普景・誠信女子大学校教授の下記の発表もおこなわれた。

・Yang, Bo-kyung, “1:50, 000 Topographic Maps of Korea in the Late 19th Century and Early 20th Century” .

またこの発表の翌日、韓国における日本軍による地図作製の研究を続けてこられた南 榮佑・高麗大学教授の研究室を訪問した。



写真 13 南教授と岡田郷子さん
（高麗大学正門にて）

④2006 年 8 月 21 日～27 日、国史館・中央研究院・中央図書館台湾分館（いずれも台北）で、植民地期の台湾における土地調査事業ならびに中華民国の類似事業に関する資料調査を実施した（小林 茂・渡辺理絵）。旅費は千田 稔・国際日本文化研究センター教授が代表者をつとめる科研費研究「東アジアとその周辺地域における伝統的地理思

考の近代地理学の導入による変容過程」および片山 剛・大阪大学教授（東洋史）が代表者をつとめる科研費研究「1930年代広東省土地調査冊の整理・分析と活用」によった。

- ⑤2006年9月1日、国立国会図書館で朝鮮半島の外邦図関係資料を調査（小林 茂）。
- ⑥2006年9月8日、アジア経済研究所（千葉幕張）で、台湾の土地調査事業関係の資料の調査ならびに複写依頼（小林 茂）。
- ⑦2006年9月13日午前中、国立国会図書館で大山巖文庫の地図の調査をおこなった。また同日午後、三菱財団の人文科学研究助成「日本の旧植民地における土地調査事業と地図作製」（助成金額：2年間で180万円、研究者：小林 茂・久武哲也・鳴海邦匡）の贈呈式に出席した（小林 茂）。
- ⑧2006年9月24日、日本地理学会大会（静岡大学浜松キャンパス）の昼休みを利用して、外邦図研究の経過報告と今後の方針を話し合った（田村俊和・村山良之・宮澤 仁・小林 茂ほか）
- ⑨2006年11月12日、人文地理学会大会（近畿大学）での発表
・岡田郷子・小林 茂「植民地期以前の朝鮮半島における日本の軍用地図作製」（『2006年人文地理学会大会要旨集』30-31頁）。
- ⑩2006年12月15日、国立公文書館で朝鮮半島の外邦図の調査（小林 茂）
- ⑪2007年2月24日、午前中に国立国会図書館で「総合地理調査研究会」関係資料の調査（小林 茂）
- ⑫2007年2月24日、日本国際地図学会の総会がおこなわれ、渡辺理絵さんが論文奨励賞を受賞した（渡辺理絵・小林 茂「日本－中国間の地図作製技術の移転に関連する資料について」、『地図』42巻3号[2004]、15-30頁のファースト・オーサーとして）。



写真13 受賞のあいさつをする渡辺理絵さん

- ⑬2007年2月24日、日本国際地図学会の総会で清水靖夫氏が特別講演「第二次大戦前後の日本の地図事情」（要旨は『地図』45巻3号[2007]、23-27頁）をおこなった。



写真14 清水靖夫先生による特別講演

- ⑭2007年3月6日～9日、琉球大学図書館、沖縄県公文書館、沖縄県立図書館で沖縄県の土地整理事業関係資料を調査（鳴海邦匡・小林 茂）。旅費は三菱財団助成金によった。
- ⑮2007年3月14・16日、京都大学文書館で室賀信夫氏の個人資料の調査（鳴海邦匡）。
- ⑯2007年3月16日、京都大学文書館で室賀信夫氏の個人資料の調査（鳴海邦匡）。
- ⑰2007年3月、片山 剛・大阪大学教授の科研費研究「1930年代広東省土地調査冊の整理・分析と活用」の中間報告書に下記の報告を寄稿した。
・小林 茂・渡辺理絵（2007.3）「近代東アジアの土地調査事業と地図作製：地籍図作製と地形図作製の統合を中心に」片山 剛編『近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター2』大阪大学文学研究科片山研究室、4-14頁。
・渡辺理絵・小林 茂（2007.3）「陸地測量部修技所に在学した清国留学生の名簿に関するノート」片山 剛編『近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター2』大阪大学文学研究科片山研究室、102-114頁。

（文責：宮澤 仁・波江彰彦・小林 茂）